

# 全国の空中磁気図

大久保 泰 邦 ・ 浦 井 稔 ・ 津 宏 治 (物理探査部)  
Yasukuni Okuno Minoru Urai Hiroji Tsu

高 木 慎一郎 (新エネルギー総合開発機構) 小 川 克 郎 (地殻熱部)  
Shin-ichiro TAKAGI Katsuro OGAWA

新エネルギー総合開発機構 (NEDO) では 地熱探査を目的とした種々の調査を行っている。この中で地下深部の温度分布を求める目的で1980年より1984年にかけてキュリー一点法調査が行われた。キュリー一点法調査では地質調査所が保有する既存の空中磁気データとNEDOが新規に取得した空中磁気データと合わせて全国の空中磁気図が作成された。ここでは新エネルギー総合開発機構のデータをもとに地質調査所の地熱情

報データベースシステム (SIGMA) を利用して作成した空中磁気図を示す。

なお 地域間で連続した図になっていない理由は作成された面の高度の違い等である。また日本のような北半球中緯度地帯では一つの磁性体に対して磁性体の南側に正磁気異常が、北側に負磁気異常が分布する特徴があることを考慮されたい。

凡例に示される磁気値の単位は nT である。

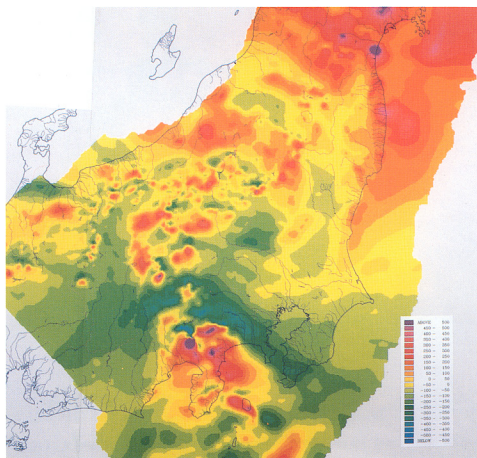


写真1 東北南部・関東・中部地域の空中磁気図 (IGRF 残差磁気図)。作成面高度海拔3,200m 富士山周辺及び伊豆半島周辺の短波長の磁気異常帯を取りまく様に負の異常帯が分布する。

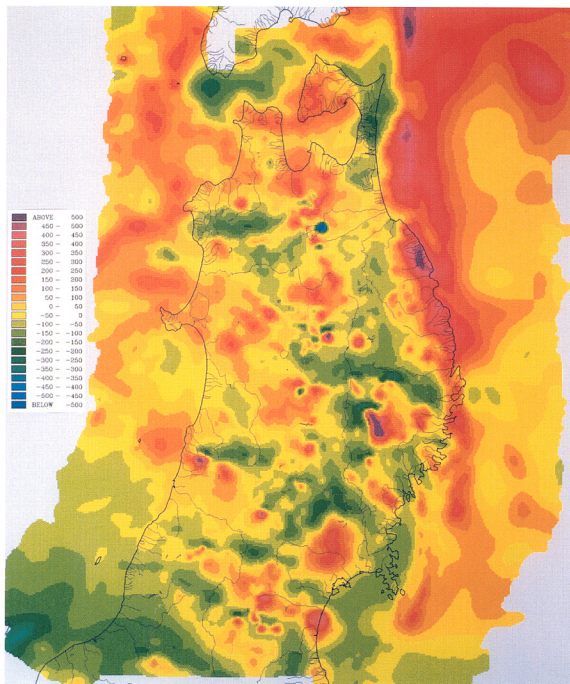
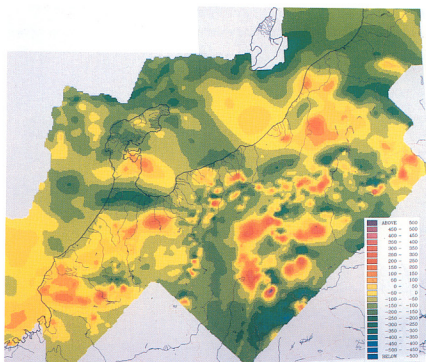


写真2 東北地域の空中磁気図 (IGRF残差磁気図)。作成面高度2,438 m。北海道から続く正の磁気異常帯は三陸海岸を通りさらに南下する。正磁気異常帯の西側ではほぼ東西の方向性を持つ異常帯が東北弧全域に分布する。

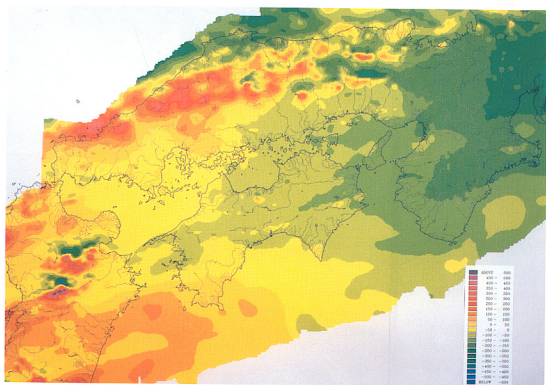


←写真3

信越・北陸地域の空中磁気図 (IGRF残差磁気図)。作成面高度海拔3,200m。飛騨外縁帯の位置とほぼ一致する線によって短波長磁気異常分布域と顕著な磁気異常に乏しい地域に二分される。

近畿・中国・四国地域の空中磁気図 (IGRF残差磁気図)。作成面高度海拔2,438m。中国地方の北部を大振幅短波長の磁気異常群が東西に走る。

↓写真4



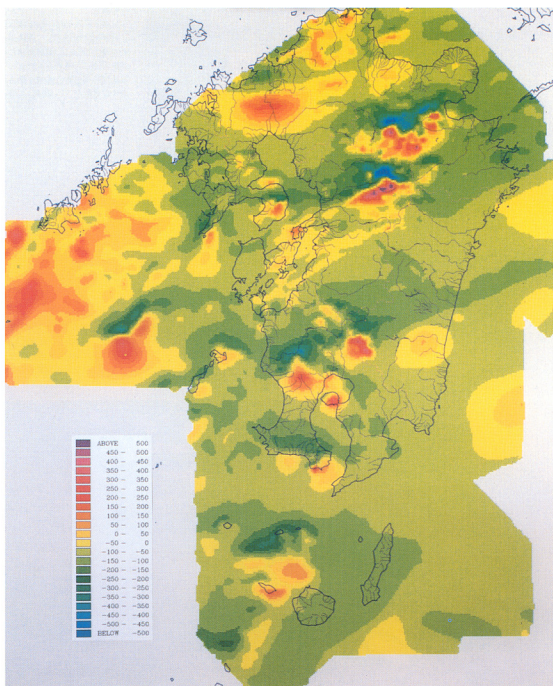


写真 5

九州地域の空中磁気図 (IGRF 残差磁気図)。作成面高度海拔1,981m。琉球火山列に対応した磁気異常はほぼ東西の方向性を持ち、約80km間隔で点在する。